

平成 28 年度（第 1 回）久留米市食料・農業・農村政策審議会 議事録

日 時：平成 28 年 7 月 21 日（木） 午前 10:00～

場 所：久留米市役所 3 階 305 会議室

出席者：15 名（欠席者：宇佐川委員、猪口委員） ※詳細は別紙のとおり

事務局：別紙のとおり

傍聴者：なし

次第	<p>1. 新任委員紹介</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>3. 報告事項</p> <p style="padding-left: 20px;">(1)第 2 期食料・農業・農村基本計画 【平成 27 年度 実績報告】</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 第 2 期食料・農業・農村基本計画 【平成 28 年度 実施計画】</p> <p>4. 情報提供（委員及び事務局から）</p>
----	---

1. 新任委員紹介

事務局	<p>新任委員紹介（1 名）</p> <p style="padding-left: 20px;">久留米市農業協同組合 青年部</p> <p style="padding-left: 20px;">副部長 井上 元 委員</p>
-----	---

2. 会長挨拶

会長	挨拶
----	----

3. 報告事項

(1) 第 2 期久留米市食料・農業・農村基本計画【平成 27 年度 実績報告】

事務局	【配布資料 平成 27 年度実績報告(P1～P36)について説明】
A 委員	販売力強化の認知度向上について、販売力の強化ということはブランド力を上げるということで、もちろん市民の意識も大事であると思うが、何か対外的なところで意識調査を行う検討はしているのか。
事務局	<p>ブランド農産物の認知度については、「くるモニ」というアンケート調査で指標の整理をしている。</p> <p>まずは、「くるモニ」の認知度を活用し、どれほどの認知度があるのか計っていきたい。ただし、今後はブランド農産物の捉え方、どういった品目をさらに加えるかといったことを検討していく必要があると考えている。</p>
B 委員	就農希望の依頼は、県普及センターに多いイメージだったが、市のほうにも依頼が来ているということで、市として具体的にどういった対応をされているのか。

事務局	<p>就農相談については、市、普及センターともに多くなっている。最近、市のほうに相談が増えてきたのは国の事業との関係があるのではないかと思う。また、ホームページなどを拝見されて青年就農給付金について知りたいということでお尋ねに来られる方も増えている。</p> <p>実際に相談があった時には、まずその方の状況や目標などについて聞き取りをさせて頂いている。次の段階で、市、普及センター、JA と相談者の 4 者が揃って相談会を設定し、アドバイスをしていくという形で対応を行っている。様々なケースがあるが、大体一人あたり 4 回から 5 回、多い方だと 6 回、7 回と相談会を行っている。</p>
C 委員	<p>今の質問に関連したことで、実際に職業として就農された方の昨年度の実績などについては把握しているのか。</p>
事務局	<p>最近の傾向としては、就農相談から最終的には国の事業である青年就農給付金を活用される方が増えてきている。給付金を活用された方は、昨年で 16 名おられた。実績の把握については、就農された方から資料をご提出いただいたり、こちらから面談を実施したり、圃場の確認などを普及センターと一緒にに行い確認している。</p>
C 委員	<p>新規就農後に様々な課題が出てくるかと思うが、営農指導やモニタリング等も 5 年間継続して行っていくのか。</p>
D 委員	<p>まず、新規就農者の把握については、各関係機関に調査していただいているものや、普及センターが活動している中で把握しているものがある。</p> <p>新規就農の方々に対しては、JA と市と一緒に研修会や個別の相談会などを行い、5 年間は継続して対応していく。</p>
E 委員	<p>今の件に関して、公的機関からの色々な援助や助言も就農する方にとって大事であると思うが、新規就農者として頑張っておられる方にとって、隣の田畑の方の指導や助言も大変重要であると思うので地域での協力体制の強化ができると良い。</p>
D 委員	<p>地域での協力体制の強化は非常に大事なことであり、市でも「地域連携推進事業」という事業で、ベテランの方々などからの指導や研修などを通じ、地域に馴染んでもらうように努力しているところである。</p>

(2) 第 2 期久留米市食料・農業・農村基本計画【平成 28 年度 実施計画】

事務局	<p>【配布資料 平成 28 年度実施計画の概要についてパワーポイントで説明】</p>
F 委員	<p>農商工連携の見本市やマルシェでの P R の説明の中でシティプラザが出てきたが、できればシティプラザの室内にこもってしまうのではなく、市民が入ってきやすいものにして欲しい。</p> <p>特に見本市においては、今まで一般市民が入りにくい部分があったので、シティプラザの広場の活用も含めた上で何か考えがあれば伺いたい。</p>

事務局	<p>見本市については、各年度に1回、今までに2回実施しており、いずれも出展者の方々がいらして、そこにバイヤーの方々にお越しいただくB to Bの形で実施している。そのため、確かに一般の方々が会場に入ってきてづらいような状況もあったかと思う。</p> <p>そういった状況を踏まえ、あくまで予定ではあるが、今年度の見本市については、もちろんシティプラザを会場として、これまでになかったB to Cという形で消費者の方々へのPR、できれば販売に至るまでをシティプラザ横の六角堂広場の活用も含め検討し、拡充を図っていきたい。</p>
G 委員	<p>園芸農業等総合対策事業について、主な事業内容がいくつか書かれており、カッコ書きで国や県と記載があるが、こういった事業については事業者が直接国や県とやり取りをしなければならないのか。</p>
事務局	<p>今回の資料に記載している国・県の事業につきましては、市を通じて県から国・県へと手続きをさせて頂いている。</p>
E 委員	<p>農作物が被害を受けた際の対策支援はどうなっているのか。</p>
事務局	<p>農産物の種類にもよるが、農業共済という制度があり、そこに加入をしていれば被害を受けた際に共済からお金が出るようになっている。この制度は、お米関係で加入される方が多く、野菜関係では共済制度自体がないため、現在は公的に支援する制度がない。</p>
C 委員	<p>園芸農業等総合対策事業の予算が9億7千万円ほどあるが、具体的にどういった作物が作られるのか。</p>
事務局	<p>最近トレンドとなっている品目としては、小松菜、ニラ、ねぎなどの葉物野菜が多くなっている。</p> <p>今回予算の額を大幅に拡充しているが、「活力ある高収益型園芸産地育成事業」で、今年度予算が福岡県全体で14億5千万円ほどある。久留米市の要望で8億円を超えており、久留米市に8億円全ていただけるわけではないので、要望を叶えられないことも出てくるかと思う。県とも相談して、国の事業に合致するものについては、国の事業で支援をさせて頂くような形をとっていく。</p>
C 委員	<p>久留米市は、最近非常に葉物野菜が有名になってきているが、この伸びをさらに強化するということか。</p> <p>それともう一点、最後のキラリ創生総合戦略について交流事業を増やすということで観光農園の整備支援や農業体験事業の実施があるが、例えば市としてつばき園などの活用や、体験した方に入浴券を差し上げるなどの取組を検討してみてもどうか。</p> <p>現在ある施設を開放して活用する形でも良いので、ぜひ耳納北麓地域をさらに魅力ある地域にしていってほしい。</p>
G 委員	<p>今の件について、つい最近、自分の農園でブドウの袋がけ体験事業を実施した。参加者は、福岡県の方が多かったが、久留米市の方にもお越し頂き、全部で30人弱の方にお越しいただいた。近くの温泉とも</p>

	<p>連携し入浴の優待券などの配布も行い、大変賑わった。</p> <p>こういった取組があちこちであると大変賑わうのではないかと思う。</p>
C 委員	<p>やはり、点ではなく面だと思うので、こういった連携した取組もぜひ応援して実施して欲しい。</p>
A 委員	<p>中国の爆買いに関連したことで、今、医療ツーリズムで日本の医療が注目を浴びている。その中で「食」についても注目が集まっており、やはり美味しいものが食べたい、ゆっくりしたい、日本らしいことを体験したいというようなニーズが高まっている。久留米市は、医療都市でもあるので、農業だけでなく、そういったツーリズムなどでお客様を取り込んでいく中に農業を組み入れていくことも検討していくべきではないか。</p>
C 委員	<p>今の意見に付け加えさせていただきますが、久留米大学には、がんワクチンセンターができており、そのセンター長が免疫力を高める薬を開発されている。センター長は『何よりも「食」が大事で久留米はB級グルメが有名だが、G級グルメも強い。』と言っておられる。</p> <p>Gというのは、グリーン関係のことで、免疫力が低下したら野菜をしっかり食べて免疫力つけることが大切であると言われていたので、そういったことも是非活用してみてもどうか。</p>
事務局	<p>先ほどございました、耳納北麓地域での体験事業ですが、こちらの事業は、体験を通じて農業を知っていただく、また農家の所得向上につながるといった点で重要な事業である。その中で収穫だけでなく、作付けから収穫までを一体化させていくことが重要であると考えている。また、耳納北麓地域のすばらしい財産にも触れていただき、体験終了後に近くを散策していただくことで耳納北麓地域の魅力を存分に堪能していただきたいと思っている。</p>

4. 情報提供

事務局	【シティプラザパンフ及び同和問題チラシについて紹介】
-----	----------------------------